

まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第275号



2026. MAY
令和8年5月1日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



グラウンドゴルフで健康づくり (丸森地区)

(表紙のことば… 28ページ)

3月議会

新事業であたらしい日常へ	2	ページ
課題解決へどう取り組むか	6	ページ
一般質問 13人の議員が町政を問う	10	ページ
まちづくりへの要望	24	ページ



丸森町公式キャラクター
ねこがみとうぐいすP

新事業であたらしい日常へ

3月議会のあらまし

定例会は3月3日から17日まで開催しました。

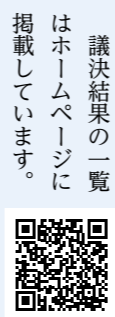
主な議決内容

- ◆令和8年度各種会計
予算 9件
- ◆報告 4件
(損害賠償の額決定に関する専決処分ほか)
- ◆人権擁護委員候補者の推薦 3件
- ◆条例の制定 2件
(丸森町耕野地域振興施設の設置及び管理に関する条例ほか)
- ◆条例の一部改正 3件
(丸森町企業誘致の促進に関する条例の一部改正ほか)

◆丸森町過疎地域持続的 発展計画の策定

◆一般会計ほか6会計の 補正予算

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。
一般質問は議長を除く13人全員の議員が行い、自らの考えを交え、町長や教育長と活発な議論を行いました。
最終日には、新年度各種会計予算に関する要望決議を決議し可決しました。



議決結果の一覧はホームページに掲載しています。

令和8年度予算は

一般会計予算

128億2300万円で7年度と比較して5億6300万円、4・6%の増となりました。

特別会計予算

国民健康保険特別会計等5つの特別会計予算総額38億4470万円

企業会計予算

病院事業会計 14億5962万円
水道事業会計 5億2003万円
下水道事業会計 6億6801万円
※予算額は収益的支出及び資本的支出の合計額
(5ページに詳細があります。)

町民広場公園整備に 2億4000万円

既存の町民広場公園を整備するための予算です。町内には子どもが遊べる場所が少ないことから、子どもが楽しめる大型複合遊具等を設置するとともに、公園周辺の駐車場整備やトイレの改修を行います。



リニューアル予定の町民広場公園

五福谷地区公園整備等に 2160万円

住民同士が集える空間として、新たに公園を整備するための予算です。公園内には令和元年東日本台風災害直後に天皇皇后両陛下が行幸啓されたことを記念した行幸啓記念碑等を建碑します。

館矢間小学校体育館 長寿命化改修工事に 2億5000万円

老朽化した体育館の改修工事を行うための予算です。安全面の確保や体育館としての機能を改善し、児童がより良い環境で利用できるよう早期完了を望みます。



大規模改修で安全な体育館に (館矢間小学校)

スポットクーラー設置に 120万円

小中学校体育館にスポットクーラーを設置するための予算です。体育館での活動における熱中症対策として、風の当たる特定の場所をつくり、適宜クールダウンできる環境を整えます。

宮城オルレ丸森コース 関連事業費に 2156万円

安全面に配慮したコースの整備や認定後の管理、11月開催予定のオープニングイベントのための予算です。丸森コースでは町の歴史や文化、自然などの魅力を体感できるコースの設置を進めています。



自然がいっぱいのオルレコース (館矢間地区)

果樹産地形成支援事業に 500万円

本町で省力樹形等の生産性向上技術を活用した果樹栽培に取り組む農業者を支援するための予算です。国の補助金に加え、町独自の補助金を新設することで、将来的な果樹産地の形成および耕作放棄地の抑制を目指します。



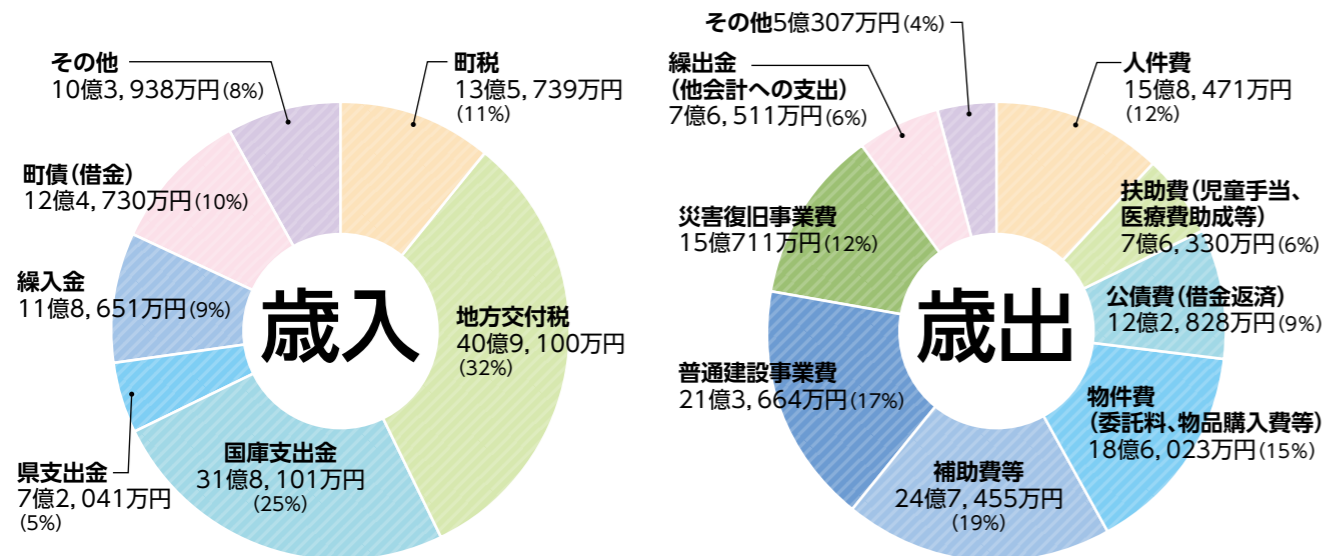
手間をかけて美味しい果実に 桃の摘蓄作業 (館矢間地区)

旧玉川住宅跡地整備に 2800万円

令和5年度に老朽化により解体され、更地となっていた旧玉川住宅跡地に、若者定住促進住宅の整備を行うための予算です。8年度は、住宅4棟16戸を建築するための実施設計を行います。

令和8年度予算を認定

一般会計予算は128億2,300万円



各種会計 当初予算の比較

会計名	令和8年度	令和7年度	伸び率
一般会計	128億2,300万円	122億6,000万円	4.6%
特別会計			
国民健康保険	15億7,130万円	17億1,320万円	▲8.3%
後期高齢者医療	2億2,710万円	2億540万円	10.6%
介護保険	18億8,190万円	19億3,470万円	▲2.7%
宅地造成事業	100万円	60万円	66.7%
工場団地造成事業	1億6,340万円	1億6,320万円	0.1%
小計	38億4,470万円	40億1,710万円	▲4.3%
計	166億6,770万円	162億7,710万円	2.4%

病院事業会計			
収益的支出	13億4,390万円	13億933万円	2.6%
資本的支出	1億1,572万円	2億9,073万円	▲60.2%
水道事業会計			
収益的支出	3億9,426万円	3億9,491万円	▲0.2%
資本的支出	1億2,577万円	3億5,996万円	▲65.1%
下水道事業会計			
収益的支出	4億8,348万円	4億5,915万円	5.3%
資本的支出	1億8,453万円	13億786万円	▲85.9%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出
 ※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出

条例の制定 耕野地域振興施設の設置



大規模改修された旧耕野小学校

令和7年度から大規模改修を行っていた、旧耕野小学校を新たに丸森町耕野地域振興センターとして設置し、管理するための条例を制定しました。
 本センターは、地域課題

の解決と関係人口の創出によって、耕野地域の振興に寄与する拠点として設置されるものです。
 多目的ルームやワーキングオフィスなどが利用できるほか、耕野まちづくりセンターが併設されます。
 施設の使用開始は、8年7月を予定しています。

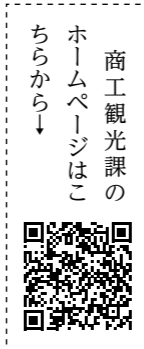
条例の一部改正 企業誘致の特例措置を継続



企業立地奨励金を活用した工場

丸森町企業誘致の促進に関する条例の一部を改正しました。
 この条例は町内で事業所を新設または増設する企業に対して行う奨励措置について定めたもので、企業立地奨励金、雇用奨励金及び町税免除の3つの奨励制度があります。

その中でも企業立地奨励金については、投下固定資産の取得額に応じて奨励金の限度額を増額する特例措置が設けられています。
 この特例措置が、令和7年度末から12年度末まで延長されました。詳しくはホームページをご覧ください。



商工観光課のホームページはこちらから↓

議会を傍聴して ひらいて



筆甫地区 今野 正昭さん

傍聴席からは発言者の表情や息遣い、あうんの呼吸でのやりとりが感じられ面白いです。
 議員は地域の課題も質問していて個性的で面白いと思います。



大内地区 梅津 正喜さん

久しぶりに一般質問を傍聴しました。地域活性の提案に対する町長の考えをただす内容でした。
 議会と町が更に一体となって活力アップにつながるほしいと願います。

課題解決へ どう取り組むか

予算認定に関連した総括質疑の中から取り上げました

総括質疑とは、町の方針や予算全般に関して質問するものです

不動産エリアの構想は

問 新たな観光資源の創出に向けた、不動産エリアの温泉資源開発でどんな構想を描いているのか。

答 ある程度の場所の特定をおこない、その結果に基づきあぶくま荘の再整備も視野に入れ、町の誇る観光資源である不動産エリアの開発を進めていきたい。

仮置場集約は

問 放射能汚染の除去土壌等の仮置場集約施設は、住民の同意を得ているのか。

答 説明会や意見交換会を開催し、出席した大半からやむを得ない上で理解を得ている。
反対している方々には丁寧な説明を継続していく。



新たな観光資源に期待 (不動産公園隣接のあぶくま荘)

熊対策はどのようなものか

問 令和8年度に熊対策の計画があるが、その詳細は。

答 熊撃退スプレー、捕獲用のヘルメットのほか、熊の檻を2基増やす。また、丸森町有害鳥獣駆除隊と連携し緊急銃猟に備えるとともに住民への注意喚起もおこない人的被害がないよう対策を進める。

地球温暖化対策は

問 地球温暖化対策として新たに策定する区域施策編とはどのような計画か。

答 家庭では節電、食品ロスをなくす。企業では、省エネ性能の高い機械を導入する。全体としては、自動車運転時のエコドライブや公共交通機関を利用するなどの取り組みで、町全体で二酸化炭素の排出量削減を目指すもの。



緊急銃猟訓練

道路の無電柱化は

問 斎理屋敷周辺道路の無電柱化はどのように進めていくのか。

答 令和8年度に電柱を裏通りに回し、9年度以降に道路に歩道をつけ歩車道境界ブロックを外した道路の整備を考えている。

給食の食材は

問 学校給食食材購入の際、町内産を優先するが、町内産の占める割合を明確に示しているか。

答 地場産品の占める割合をしっかりと示した数値で示していないため、基準を設けながら十分に伝わるようにする。



無電柱化でにぎわい創出を

就農者の育成は

問 新規就農者の確保に向け、具体的な計画は進んでいるのか。

答 新規就農者の確保と育成を効果的におこなう専門組織を設置する。立ち上げに向け令和8年度から準備し、1年間検討を重ね9年度から設立する。

病院の健全経営は

問 入院患者が激減する中、病床の適正な規模について、具体的に検討しているか。

答 経営コンサルタントを入れて検討している。令和8年度中に病棟の集約の方向性をしっかりと決めなければ、9年度からの病院の運営は難しくなると見込んでいる。



丸森に移住して新規就農しました

証 検

新年度予算

予算審査特別委員会

会期中4日間にわたり、町長、副町長、教育長及び担当課長等の出席を求め、令和8年度の予算審査を行いました。質疑の一部を要約してお知らせします。

寺沢川改築工事の進捗は

令和元年東日本台風によって甚大な被害が生じたことから町中心部の内水氾濫対策として雨水幹線を整備する事業です。

町中心部の排水路工事完成の見通しは。

若干遅れている現状であるが、令和8年度末までの完成を目指している。イベント事業や事業者に影響が出ないように、関係各課と情報共有し進める。

買い物支援の内容は

高齢者の多い地域や山間部への移動販売車による買い物支援事業です。

買い物支援事業はどのように進めるのか。

町内で移動販売に取り組む事業者を公募し、1者を選定する。車両購入費や燃料費等に充てられる補助金を創設し、先行事業者の指導を受けながら進める。



流化能力を高め、内水氾濫に万全の対策を



MIZBE指定管理料は

丸森町MIZBEステーションは、公募により決定する指定管理者が管理運営業務をおこないます。

指定管理料として年3180万円が計上された。

全国の類似施設と比較し適切な額か。他の観光施設と違い防災機能が7割を占める。指定管理料は他の類似施設と比べても大きな差はない。



着々と工事が進むMIZBEステーション

通院移動支援の内容は

丸森病院から紹介された病院へ通院する際のタクシー利用料を助成する事業です。

通院のためのタクシー利用料助成について詳細は。

令和8年度は試験的に実施し、結果を基に今後の内容を検討する。6000円の2分の1の3000円を上限とする。

コミュニティ・スクールは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

コミュニティ・スクールをどのように導入するのか。

令和8年度において、会計年度任用職員1名を地域学校運営指導員として配置し、各学校、保護者および地域住民で現状理解、課題を共有し導入準備をおこなう。



長距離通院のために利用しやすくなったタクシー

森林体験施設設計とは

子どもたちの森林に対する理解の醸成や生きる力を育むための施設を整備する設計をおこないます。



森林体験施設を整備予定の不動尊公園キャンプ場

000円が計上された。どのような施設か。

不動尊公園の敷地内に5000㎡程の森林体験施設を設置する。町内産木材を使用した森林アスレチック施設で、令和10年のオープンを目指す。

森林体験施設設計業務委託費として、599万8

一般質問 町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずぬものです。3月定例会では、議長を除く議員13人全員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
11	渡辺 政巳	●阿武隈急行線の存続は 町長 持続可能な策を検討
12	鈴木 美智子	●医療体制は 町長 近隣自治体との連携を維持
13	山本 明德	●給食食材契約の方法は 教育長 随意契約の手法で
14	中津川 かおり	●旧大内小学校の利活用は 町長 譲渡等の活用策を探る
15	八巻 真由	●性教育とSRHR推進を 町長 既存事業の中で対応する
16	板橋 勇	●病院の抜本的な改革を 町長 新院長の下、病院経営にあたる
17	船山 俊一	●若者定住をどう進めるのか 町長 全庁連携して推進する
18	石井 央	●私有林寄付制度創設を 町長 制度創設はない
19	金森 裕之	●新しいまちづくりの施策は 町長 関係人口の拡大に取り組む
20	大槻 孝雄	●共聴施設組合の支援は 町長 国の動向を注視し検討
21	大槻 正儀	●丹頂鶴の復帰を目指せ 町長 慎重な検討が必要
22	菊池 修一	●地域医療を守るには 町長 職員一丸で取り組む
23	海川 正則	●白石丸森線早期完成を 町長 県に強く働きかける



次の議会は
6月10日(水)午前10時 開会予定

●日程が変更になる場合があります。


問い合わせ先 議会事務局
☎0224-72-3038



スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで
ライブ中継しています

●一般質問は過去の映像を常に視聴できます。



阿武隈急行線の存続は

町長 持続可能な策を検討



わたなべ まさみ 渡辺 政巳 議員



一般質問動画

阿武隈急行が昭和63年の全線開通以来沿線開発が進んでいない。阿武隈急行線の魅力を高めるため沿線開発は必要と考える町長に問う。

問①丸森駅をにぎわいの拠点と考えると観光客や列車を待つ人のためにもコーヒーストールは必要と考える。また、丸森町が率先して駅前開発を行い、沿線市町へ沿線開発を進めるよう呼びかけるべきと考えるかどうか。

答①沿線開発といった大型事業にこだわらず、沿線自治体や阿武隈急行株式会社

との連携を一層深め、イベントなどの取り組みを通じながら駅周辺のにぎわいの創出と活性化を図っていく。

問②過去に大雪で東北本線が運行停止になった。緊急事態に備えJR東日本に阿武隈急行線への乗り入れを働きかけるべきではないか。

答②本町としては、阿武隈急行線の利用促進と経営の安定化を図ることを基本としつつ、沿線自治体や阿武隈急行株式会社との協議の場において、広域的視点から、JR東日本との連携や、鉄道ネットワークの在り方を検討していく。

機を設置、精算システムの整備、通信環境の構築等に約27億円の初期投資が必要となる。

更新費用も継続的に発生するため、現在の経営規模や利用実績を踏まえると、ICカードシステムの導入は難しいと考える。

問③現在JR東日本は交通系ICカードで乗り降りできる。銀行カードで乗り降りできる鉄道会社もあり、全国的にカード利用が広まってきている。利用者の利便性を考慮し、カード利用への取り組みの考えは。

答③ICカードシステムの導入は、自動改札機や読取



阿武隈急行線存続を願う



やまもと あきのり
山本 明德 議員



一般質問動画

給食食材契約の方法は

教育長 随意契約の手法で

令和7年9月議会でも、学校給食の食材購入決定の過程について疑問が解決されなかったため、6年度決算を不認定とした。

食材の中で野菜を提供しているのは町内の生産組合と商経業者の2者であり、情報開示請求を行った結果を基に、取引の手続きや発注について教育長に問う。

問①見積り合わせで競合した物品のほとんどが生産組合に発注されているが、どのような基準で発注を決めているのか。また、生産組合の人数は把握しているか。
答①地産地消を推進する観点から地場産品食材を優先している。丸森産、または丸森産及び町外産という表示がある生産組合の物品の採用を決定し、地場産以外の食材は、価格の安い方を採用し発注している。

問②丸森産及び町外産という条件の野菜も採用されているが、町内産の占める割合の基準はあるのか。
答②野菜類は天候の影響で収穫量が異なるなどの不確定要素があることから納入時点での丸森産の占める割合は定めていない。

問③生産組合と商経業者が競合した物品の多くが、1kgあたりの単価が10円という最少差である。見積書提出後に値下げ交渉を行っているとのことだが、どのような根拠に基づいているのか。
答③地方自治法施行令の規程に基づき随意契約の方法をとっている。季節により品目や数量が変わるのでその都度見積り依頼内容も異なっている。このような状況で過去の実績を踏まえ業者が見積りをした場合は、結果的に単価が僅差になることは十分考えられる。また、契約金額の妥当性を確保するため契約締結前に価格交渉をして値下げする場合もある。



生産者の減少などで、確保が難しくなっている地場産野菜

医療体制は

町長 近隣自治体との連携を維持

本町が住みよいまちであるためには医療体制も重要と考え町長に問う。

問①丸森病院は令和8年度に新院長を迎え、医療体制の強化と経営改善にどう取り組むのか。
答①旧東北大学医学部付属病院第三内科と東北大学病院消化器内科に勤務した後、県内の公立病院等で勤務し現在は副院長を務める方を新院長に迎える。

これまでの豊富な経験を活かし、仙南医療圏の医療機関や介護施設と連携を図り町民が求める医療の提供に尽力するものと期待する。

問②6年度末時点で、全国844の公立病院の約8割が赤字で丸森病院も含め大変厳しい状況にある。指定管理は全国84で、赤字の縮小等の成果を上げている一方で経営悪化で休院もある。地域状況や患者の特性等を踏まえ採算のみを重視せず地域が求める医療提供の継続が大切である。
問③患者数を増やすために産婦人科や小児科、耳鼻科等を新設してはどうか。
また、片道30分以上かけ産科医療機関に移動する妊婦に、出産に備える宿泊費の一部を補助してはどうか。



医療と看護を統括するナースステーション
(丸森病院)



すずき みちこ
鈴木美智子 議員



一般質問動画

問②病院には毎年一般会計から3億3千万円を繰り出している。患者数の減少等で令和7年12月議会でも2億円を追加して繰り出した。今後も患者数が減少して繰出金が増加することで財政圧迫になりかねない。公設民営化の指定管理も視野に入れ経営体制の見直しを検討する時期ではないか。
答③特に産婦人科と小児科の医師不足が深刻で新設は極めて困難である。近隣自治体の医療機関と連携して地域全体で医療機能を補完し合う体制を維持する。

基礎疾患がある等の理由で片道60分以上かけ通院する妊婦の健診と出産時の経済的支援を国の事業を踏まえて検討する。



やまき まゆ 議員
八巻 眞由 議員



▶ 一般質問動画

性教育とSRHR推進を

町長 既存事業の中で対応する

問① 包括的性教育推進のため、専門家と連携して児童生徒や教員向けの研修を行う必要があるのではないかと。また家庭との連携は。また家庭との連携は。また家庭との連携は。

少子化が問題視される一方で、人工中絶や孤立出産、乳児遺棄事件、性被害の増加などの社会問題がある。その背景に性と人権に関する社会の認知不足があり、包括的性教育とSRHR※の推進が重要であることから、町長と教育長に考えを問う。

答① 教育長 誰もが性犯罪や性暴力の被害者、加害者、傍観者にならないよう教育を進める必要がある。教育

課程全体を通して学ぶ機会を確保するよう努める。

問② 子どもたちが悩みを相談できる体制は整っているか。また家庭との連携は。また家庭との連携は。また家庭との連携は。

答② 教育長 相談体制は整えている。保健だより等で家庭との連携と周知を図っている。

問③ 包括的性教育は5歳からの開始が推奨されている。本町保育施設でも更に進める必要があるのではないかと。また家庭との連携は。また家庭との連携は。また家庭との連携は。

答③ 幼児期の性教育は重要な要素であり、性被害防止対策と共に発達段階に応じた取り組みをしている。

問④ 女性支援法の施行に伴い計画策定と女性支援の窓口を設置し、適切な女性支援の環境を整備する考えは。また家庭との連携は。また家庭との連携は。また家庭との連携は。

答④ 専門性を活かして各課で対応しているため窓口設置は行わない。計画策定は既存計画に盛り込む方法を視野に入れ検討する。



町内の講師による生理や妊娠について学ぶ特別授業 (丸森小学校5年生)

旧大内小学校の利活用は

町長 譲渡等の活用策を探る

旧大内小学校は、完成が待たれるMIZBEステーションを国道113号でつないだ沿線に位置する。MIZBEステーションが本町のゲートウェイとなり、町内を周遊させることを目的とするのであれば、旧大内小学校の立地は絶好の周遊場所になると考える。旧大内小学校の再生は、地域コミュニティの維持や活性化、観光による経済効果、雇用の創出だけでなく、本町の新たなシンボルになる可能性を秘めていると信じ、町長の考えを問う。

問① アクセスしやすい国道沿いの立地であることから、まちの交流施設にする目的で、有識者を交えた検討部会を立ち上げられないか。

答① 現状の利用形態を変更して、地域主体で旧小学校を活用する意向はないものと受け止めている。民間事業者への譲渡や貸付を視野に入れた活用策を探るため、民間の調査研究機関に相談するとともに、文部科学省の空き校舎活用募集サイト、みんなの廃校プロジェクトに登録した。



利活用を待つ旧大内小学校の校舎と校庭



なかがわ 議員
中津川かおり 議員



▶ 一般質問動画

問② 民間事業者から意見やアイデアを取集するサウンディング調査が必要であると考えるがどうか。

答② プロジェクト登録後、まだ事業者等の反応はないが、旧小学校の活用は民間事業者による活用を基本方針として進めていきたい。

問③ 旧大内小学校規模の公共建築や広い敷地の再生は、経験や実績のある事業者でなければ持続可能な事業計画の策定と運営は難しいと考える。利活用案をプロポーザルによって募集する必要があるのであるのではないかと。また家庭との連携は。また家庭との連携は。また家庭との連携は。

答③ 事業者の募集は大きな費用をかけずに実施し、地域の意向に配慮して選定するとともに活用する事業者が決定するまでは現在の利用形態や施設の維持管理を継続する。



ふなやま しゅんいち 俊一 議員



一般質問動画

若者定住をどう進めるのか

町長 全庁連携して推進する

人口減少が急速に進む本町において、特に若者の町外流出は、地域の担い手不足や産業の縮小を招き、町の持続可能性を揺るがす深刻な課題になっている。そこで、若者が戻りたい、働きたい、暮らし続けたいと実感できるまちを実現するための、戦略的な取り組みについて町長に問う。

問① 若者の転出抑制と移住定住の促進に向け、全庁横断的な推進体制をどう構築し、成果に繋げていくのか。
答① 町長を本部長とする、総合計画推進本部会議等を開催し、各施策の進捗管理

問② 若者定住の基盤となる雇用創出に向け、IT関連企業やサテライトオフィスなど、新産業等の企業誘致をどう進めるのか。
答② 県と連携し、情報通信関連企業展示会等に出展するとともに、光通信網やコワーキングスペースの整備、企業立地奨励金等をPRし、若者が魅力を感じる環境創出に努める。

問③ 大学との連携による、インターシップや研究活動を通して、若者が本町と関わる機会を広げ、将来の移住定住の実現を目指していくべきではないか。
答③ 大学のフィールドワークなどで学生を受け入れて、地域活動を通して、若者と地域との接点を増やし、関係人口の創出と将来的な移住定住につながるよ



2軍拠点の移転先を検討している楽天イーグルス（森林ドリスタジアム泉）

問④ 楽天イーグルスの2軍拠点誘致は、本町にとって交流人口の拡大や、地域活性化に結びつく大きなチャ

う、義務教育課程でも地域と関わる機会を支援したい。
答④ 球場整備等には、多額の費用負担が想定され、本町の誘致環境は有利とはいえないため、今後他の自治体等の動向を注視していく。

病院の抜本的な改革を

町長 新院長の下、病院経営にあたる

1階の外來患者が減少し経営対策が必要だが名案を見いだせない。2階の療養病床の35床の稼働率は45%、3階の一般病床は55床、稼働率は41%である。2階3階の稼働率の向上が病院収益の絶対条件になる。国の経済対策に医療、介護分野に1兆4000億円が計上されている。これは、医療関係者待遇改善や人口減により病床の空きが生じた病院が病床を削減した病院が対象になる。丸森病院の経営について町長に問う。

問① 丸森病院は2階3階の稼働率が低い。言い換えれば稼働率向上が難しい病床を削減し、国の支援を考慮すべきではないか。
答① 病床数の適正化に対する支援策は、本院において病床削減を行う際にも活用が可能であるため、支援の対象となる範囲や交付される交付金の額等について、今後調査検討していきたい。

問② 町長は今後の丸森病院の維持管理と持続可能な対策等、議会と町民に示すべきではないか。
答② 外來機能の維持と病棟機能の集約に向けて、新院長の下全職員一丸となって取り組んでいく。今後の新たな病院機能については機会を捉えて議会で説明する。

問③ 国道349号開通による経済効果と交流人口の増加が期待される。町への最大の効果を生み出す施策を策定すべきである。対応策を検討しているのか。
答③ 羽出庭大橋付近に憩う



いたばし いさむ 勇 議員



一般質問動画

駐車場と休憩施設の設備を行うための予算を計上した。
問④ 兜橋から伊達市五十沢地区までの間に狭い1車線のところがある。福島県の対応を把握しているか。

答④ 福島県の新年度予算において改良工事の詳細設計に関する経費が計上されている。



開通した国道349号を活用し効果ある施策を



かなもり ひろゆき
金森 裕之 議員



一般質問動画

新しいまちづくりの施策は

町長 関係人口の拡大に取り組む

令和8年度は、復興の総仕上げと次のまちづくりへ本格的に舵を切るスタートの年である。町民が安心して暮らせる町をどう築いていくのか町長に問う。

問①丸森町MIZBEステーションの現在の進捗状況はどうか。

また、物価高騰によって工事費の増額が懸念されているが想定はしているのか。
答①鉄骨部材の調達に想定以上の時間を要することから、工期末が令和9年2月になる見込みである。また、工事費の影響は出てくることも想定しているが、

問②かわまち交流センターの指定管理者と町との関わりや支援、連携をどう図っていくのか。
答②全体的な利活用を図り、町のゲートウェイとしての機能を発揮し、観光施設等への周遊につながるよう支援体制を構築していく。

問③MIZBEステーションは災害時の防災機能と災害伝承の拠点でもある。防災教育の実施や、町の復旧から復興までの歩みをどう次の世代へ伝えていくのか。
答③災害の記憶を風化させることなく防災、減災について学び、安全、安心なまちづくりを目指すことは重要である。さまざまな学びの場として活用したい。

問④山間部の更なる防災体制を強化する必要があると思うがどうか。
答④積極的な防災訓練の実



新たなにぎわいの創出とまち活性化へ（プレオープンした八雄館）

私有林寄付制度創設を

町長 制度創設はない

問①令和元年東日本台風は町政史上最悪の被害をもたらした。要因は大量の雨と山林の土砂と倒木であり、土砂災害を小さくするためには森林整備は重要であるが個人では手が回らない現状である。私有林の寄付を受け、町有林として管理すべきと考えるがどうか。
答①本町の私有林の整備は、町の森林総合整備振興事業と、国の森林経営管理制度事業を最大限活用して進めていくことで今後も十分対応できるものと考えており、議員提案の私有林の寄付受付制度を創設する考えはない。

問②県教委が発表した、公立高校入学者選抜の出願希望調査結果によれば、伊具高校は定員120名に対し23名、倍率0.19である。伊具高校の今後をどう考えていくのか。
答②伊具高校の出願者数は少子化の影響もあり前年倍率0.52から大きく下がり重く受け止めている。県教委の令和8年度県立高等学校組織編成計画では再編対象になっていない。一方で、現在策定中の仮称第4期県立高校将来構想の中間案では急速な少子化やデジタル化の進展等の社会環境の変化を踏まえ、従



いしし ひさし
石井 央 議員



一般質問動画

私有林、町有林を含めた町全体の森林整備を進め、伐る、使う、植える、育てるという森林サイクルの実施により、森林が持つ多面的機能が最大限に発揮されるよう努めるとともに、丸森町森林組合等と連携し、災害に強く健全で持続可能な森林づくりを推進する。

来の生徒数の減少に合わせた再編等ではなく教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的見直しを行うこととしている。

仮に閉校となれば、若者の流出が加速し、地域コミュニティの衰退を招くとの危機感を持ち生徒がこの町で学びたいと思えるまちづくりに取り組む。



植林で森林をつくる

施により、地域内で助け合う共助が図られるよう努めていく。

う認識し、計画の実効性を確保していくのか。
答⑤若年層の定住意向が低いため、シビックプライドの向上を図るとともに、関係人口の拡大に向け、ふるさと住民登録制度への参画を進める。

問⑤町総合計画が策定された10年後の将来像や目標が示された。町として現状をどう



おおつき まさよし 大槻 正儀 議員



一般質問動画

丹頂鶴の復帰を目指せ

町長 慎重な検討が必要

本町にはかつて阿武隈川と支流がもたらした肥沃な湿原や水田が広がり、たくさんタンチョウが生息していた。大内地区の3基の鶴供養碑や小斎地区にある寺院の山号を鶴棲山と称するなど、現在もなごりを残している。大内地区等の有志が平成25年から、国の特別天然記念物であるタンチョウの町内復帰を環境保全のシンボルとするため、農薬と化学肥料の半減に取り組み、鳥の餌となる水中生物増殖のために、冬水たんぼを約20ha継続実施している。東日本台風からの復興施

策として環境、稲作経済、観光、情報発信にと、明るく希望の持てる施策と考えるが、町長の考えを問う。

問① タンチョウ復帰を考える会では本州で初めての、タンチョウの分散生息地を本町にこの計画を進めている。

町は考える会との連携協働の考えはあるか。

答① タンチョウ復帰を考える会は、これまでの冬水たんぼの実施のほかに、旧大内小学校との歴史の勉強会、鶴の凧あげイベント、シンポジウムを開催するなど、活動を評価している。

大内地区協議会でも活動を支援しており、本町が本州での分散計画の最有力候補地と発信されれば光栄と考えるが、鳥インフルエンザ感染の懸念と、町民の理解と意識の醸成が必要なため、先進地や民間団体との情報交換等を行い慎重に検討する。



東日本台風からの復興の象徴に（写真提供：NPOタンチョウ保護研究グループ）

問② 登米市は令和4年に、環境省公募事業のトキとの共生を目指す里地を選定されているが、市の取り組みをどう評価しているか。

答② 当市において、渡り鳥が貴重な資源として、地域住民に根付いていることを象徴する内容であり、素晴らしい活動を続けていることは、大いに評価するものである。

共聴施設組合の支援は

町長 国の動向を注視し検討

本町にはテレビ難視聴による共聴施設組合がある。特に山間地にある共聴組合は共架料金の負担増、高齢化、組合員の減少、支障木伐採など施設の維持管理、経費増加に苦しんでいる。今後、同軸ケーブルを利用した放送が終了するため、光ケーブルに変える必要がある。同軸ケーブルを使用している自主共聴組合は光ケーブルに替える場合、多くの資金が必要になる。町はどのような支援をしているのか町長に問う。

問① 町内には共聴組合が何団体存在するのか。また、



維持管理が大変、山中にある共聴アンテナ

高齡化等により組合員減少が叫ばれる山間地の現状をどのように捉えているのか。

答① 町内には共聴組合29団体が存在し、障害共聴組合6団体、自主共聴組合12団体、NHK共聴組合11団体がある。自主共聴組合は当時に国の支援を受け、一戸7千円の自己負担で高性能アンテナ共聴施設を設置した。国のアンケート調査では、組合員の高齡化、設備の老

朽化、小規模組合の財政的な負担が課題であると認識している。

問② 自主共聴同軸組合が光化施設に変える時、町が事業主体となり国の補助事業や過疎債を活用し組合の負担軽減を図ってはどうか。

答② 補助制度を活用するには法人格を有する事や他組合との公平性を考え、どのような支援を行うべきか検討していく。

問③ 自主共聴組合の中には高齡化、組合員の減少、共架料金の値上げ、維持管理費高騰に苦しむ組合がある。共架料金の支援の考えは。

答③ 電柱共架料の免除や軽減措置を講じるよう国に要望してきたが実現されていない。国の動向を注視しながら町内の組合に対する支援の可能性を検討していく。



おおつき たかお 大槻 孝雄 議員



一般質問動画



うみかわ まさのり 議員
海川 正則



一般質問動画

白石丸森線早期完成を

町長 県に強く働きかける

令和9年7月完成予定の白石中央スマートインターチェンジが7年に工事着工された。完成すればさらに本町から東北自動車道を容易に利用できるようになる。白石市へのアクセス道として、主要地方道の白石丸森線が最短ルートであり、白石中央スマートインターチェンジや、特に東北新幹線を利用する場合においても、最適な路線である。しかし、白石丸森線の改良工事は平成24年度から県の大張館矢間道路改築事業により整備が行われているが、今だ半分程度の距離し

問②現在の道路の進捗状況は、本町が完了しており、今後は角田市が主な工事箇所となることから、角田市と連携協力し、機会を捉えさまざまな手段によって、県や国に働きかけ、早期に完成するよう進めるべきと考えるがどうか。

答①令和7年3月に改定した12年までの県の計画では、完成時期についての明確な見通しは示されていない。

問①県では、宮城県土木・建築行政推進計画の中で、大河原地域の主要事業として掲げられているが、実際に全線の整備が完成するのは、いつになるのか。

答②未改良区間である角田工区の整備については、角田市ともこれまで以上に連携協力し、早期の整備完成に向けて、引き続き県に対して強く働きかけていく。



本町分の改良工事が完了した白石丸森線（大張地区）

地域医療を守るには

町長 職員一丸で取り組む

問①人口減少に歯止めがからない本町において、高齢化が進み多くの住民が年齢を重ね、さまざまな疾患と向き合う中で、適切な医療を安心して受けられるよう、地域の医療を守る事が地域を守る事につながると信じている。その思いから丸森病院の存続を強く願うものである。多額の繰出金による支援にも限界があるため一日も早い病院経営の改革を求めるがどうか。

答①令和6年3月に策定した丸森病院経営強化プランに基づき、みやぎ仙南中核病院をはじめとする仙南医療圏内の各医療機関や町内の介護施設と連携し、それぞれの役割、機能を最適化することで、地域住民の健康維持に不可欠な医療を切れ目なく提供できる体制を整えている。患者やその家族に寄り添う姿勢を大切にしつつ、新しい院長の下、全職員一丸となって取り組んでいく。

問②子育てで日本一を目指している本町は、こども全力応援宣言を掲げさまざまな施策を展開している。しかしながら、若者の移住定住につながるような成果が出ていない。そこで英語教育を移住定住の施策の柱として成功している自治体を参考にしながら、本町においても、こども園で幼児保育の段階から本格的な英語教育を導入し、小中学校へとつながる取り組みを実践してはどうか。

答②幼児保育を担っている町内のこども園では外部講師を招いて、自然な形で英語



きくち しゅういち 議員
菊池 修一



一般質問動画

問②子育てで日本一を目指している本町は、こども全力応援宣言を掲げさまざまな施策を展開している。しかしながら、若者の移住定住につながるような成果が出ていない。そこで英語教育を移住定住の施策の柱として成功している自治体を参考にしながら、本町においても、こども園で幼児保育の段階から本格的な英語教育を導入し、小中学校へとつながる取り組みを実践してはどうか。

語に親しむ機会を設けており、楽しみながら英語に触れる経験が、小学生における学びへとつながっている。これまでに積み重ねてきた子育て支援施策や教育環境整備と一体的に発信し、この町で子どもを育てたいと思ってもらえるまちづくりを進めていく。



安定した医療体制を（丸森病院）

所管事務調査

各課で所管する事務について
聞き取りや現地調査を行いました



総務課からの聞き取り調査

この調査に注目
◆総務課
災害発生時の対応
について
◆委員長コメント
「災害時には万全の体制で」

本町は、東日本大震災や東日本台風、林野火災など、甚大な災害に遭遇してきた。これまでの災害経

験を踏まえた対応と対策の調査を行った。地域防災計画には、風水害や震災、火災における職員の配備体制の基準、初動体制フローと役割がしっかり示されていた。

また、火災予防条例の改正、新しい防災気象情報についても説明があった。今後も起こりうる災害に対し、万全を期してほしい。

総務民生 常任委員会

- ・総務課
- ・企画財政課
- ・町民税務課
- ・保健福祉課
- ・子育て定住推進課
- ・会計室
- ・丸森病院
- ・選挙管理委員会
- ・監査委員
- ・固定資産評価審査委員会



林道川平線の現地調査

この調査に注目
◆建設課
町道小屋柵線・川下線改良工事と林道川平線改良工事の進捗状況について
◆委員長コメント
「道路改良工事の状況は」

筆甫地区の町道と林道の改良工事の進捗状況を調査した。

町道小屋柵線は、令和8年度の完了を目指し工事が進められており、林道川平線は9年度の完了見込みで開設工事が進められていた。町道川下線は10年度の完了を目指している。林道開設は、林業経営の向上や通行の安全確保、防災や森林の適切な管理といった観点からも重要であるため、工事を完了に向け強力に進めてほしい。

産建教育 常任委員会

- ・農林課
- ・商工観光課
- ・建設課
- ・教育委員会
学校教育課
生涯学習課
- ・農業委員会

令和8年度各種会計予算

まちづくりへの要望

所管事務調査、予算審査を通じ、各常任委員会から出された要望事項を取りまとめ、議会として9項目を町長に要望しました



互いに丸森に移住し、丸森で出会い、丸森で家族になって定住を決めた

安心して子どもを産み育てられる環境を

- ◆ 移住定住促進のため、受け入れ態勢を整備するとともに、出生率の向上のため、安心して子どもを産み育てられる環境を整備すること。
- ◆ 自主財源確保のため、引き続き収納率の向上を図るとともに、ふるさと納税寄付額の拡大に努めること。
- ◆ 町民広場公園の整備は、保護者からも要望が多い。内容を十分に検討して、町民や子育て世帯に愛される公園を目指すこと。
- ◆ ゼロカーボンシティの実現には、町民の協力が必要である。実効性のある計画を策定し、町民の理解を深め取り組むこと。
- ◆ 丸森病院は町民の命の砦である。新院長の下、町民が安心できる医療の提供と更なる経営改善に努めること。
- ◆ 特産品開発は開発支援にとどまらず、ふるさと納税制度と連携できる規模の生産販売額を目指す経営体になるよう育成支援すること。
- ◆ 齋理屋敷や八雄館等を核とした賑わいの創出と、歴史的景観を活かした町並み整備を推進し、観光誘客と地域経済活性化を図ること。
- ◆ 若者定住促進住宅は、対象となる世帯のニーズを十分に理解し、定住促進の核となるよう実施設計を行うこと。
- ◆ 学校給食センターの食材購入は、仕様書を早急に整備するとともに、安全で質の良い食材を使った給食を子どもたちに提供できるよう努めること。

委員会 活動レポート

議会広報常任委員会

2月19日から20日

高根沢町議会(栃木県), 議会広報クリニック(東京都)



高根沢町役場での視察研修



議会広報クリニック(全国町村議員会館)

読まれる議会広報紙
高根沢町の議会だよりは文字が少なく写真や見出しが多い。また広報委員による突撃インタビューや、カフェ・ド・ギカイで町民の声を広く集め、読んでもらえる議会だよりを目指している。カフェ・ド・ギカイは年4回、各種団体等に全議員が出向き、お茶をする雰囲気や報告を行う。多様な世代の参加者の意見や要望を聞き、議会を取りまとめ町に提言もしている。町民の声を多く取り入れた広報編集で

大変参考になった。議会広報クリニックでは、伝わる議会広報作りの研修があった。広報に関心を持ってもらい、閲読やウェブサイトの利用率を向上させるには誰に、何を、どのように伝え、どうなってもらいたいのか、目的を意識した紙面作りが大事である。入賞作品を見本に、分かりやすく見やすい関心の高い広報を学ぶことができた。研修を活かし読んでもらえる広報紙にしていきたい。

大槻 孝雄 委員

宮城県町村議会 広報選考会入選



町民に伝わる広報紙を目指します

鈴木 美智子 委員長

県町村議会広報選考会で、令和7年5月1日発行の第271号が入選しました。議会の役割や存在感が伝わるまちづくりへの要望は好企画の評価で、事業予算は税金が何の事業にいくらか使われているかが的確にわかると高評価でした。改善点のひとつに、新年度予算は予算案の詳細を承知していない読者に内容説明をとのことでした。今号から事業説明を加え読者に伝わるよう取り組みます。

議会懇談会 開催のお知らせ

議会懇談会は、議会の報告及び町民と議員が意見交換を行う大切な場として開催しています。令和8年度の懇談会は、和田コミュニティセンターと各まちづくりセンターを会場に開催します。皆さまの参加をお待ちしています。

日 程	日 時	場 所
5月27日(水)	午後7時~9時	丸森まちづくりセンター
		筆甫まちづくりセンター
		耕野まちづくりセンター
5月28日(木)	午後7時~9時	金山まちづくりセンター
		館矢間まちづくりセンター
		和田コミュニティセンター
5月29日(金)	午後7時~9時	大内まちづくりセンター
		小斎まちづくりセンター
		大張まちづくりセンター

丸森町議会七十年史が完成しました。丸森町議会七十年史が完成しました。部数限定で頒布しますので希望される方は議会事務局へお問い合わせください。



議会七十年史

丸森町議会七十年史編さん 特別委員会

1月27日
議員定数の考え方について
3月10日
議員定数最終案について
議員報酬の考え方について
3月18日および4月1日
正副委員長により各種団体からのヒアリング
調査内容は、5月に開催する議会懇談会で報告し、意見をいただきます。

丸森町議会改革等調査 特別委員会

特別委員会活動報告

議員の会議出席状況

令和8年1月から3月31日

○：出席 ×：欠席 △：遅刻・早退 /：員外

月 日	公務名	出席状況													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	※丸森町議会及び宮城県議長会、仙南議長会が主催している会議や研修等を抜粋しています。※会議名等は略称を使用しています。	八巻 眞由	中津川かおり	大槻 孝雄	金森 裕之	山本 明徳	鈴木美智子	大槻 正儀	渡辺 政巳	菊池 修一	石井 央	海川 正則	板橋 勇	船山 俊一	佐藤 吉市
1	6 議会広報常任委員会	○	○	○	○	△	○								
	14 議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○								
	19 議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○								
	22 県議長会議員講座(自治会館) 希望者のみ	○	○		○										
	27 第1回議会臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	27 第3回丸森町議会改革等調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	29 仙南・亘理地方町議会議員合同研修会	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○
2	24 議会運営委員会				○	○	○	○	○	○				×	○
	24 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	26 所管事務調査(総務民生常任委員会)				○	○	○		○						
	27 所管事務調査(産建教育常任委員会)				○	○	○		○						
	3 議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	10	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	×	○	○	○
	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 第4回丸森町議会改革等調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	16 総務民生常任委員会(所管事務調査まとめ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16 産建教育常任委員会(所管事務調査まとめ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	27 議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



先祖から名前と家業を 受け継いで

筆甫地区

炭焼き職人 目黒 忠七さん

丸森で生まれ、丸森で暮らして70年あまり。筆甫地区で炭焼き職人をして
いる目黒忠七さんにお話を伺いました。

Q 炭焼き職人になろうと思ったきっかけを教えてください。

A 代々、炭焼きをする家の長男として生まれ、目黒家初代と同じ名前を付けてもらいました。絶対に炭焼きだけはしたくないと思っていましたが、岩手県山形村を訪れた際に見た炭に魅了され、40歳で炭焼きを始めました。

Q 炭焼きをしていて大変なことやこだわりを教えてください。

A 高齢になり体力的に大変になりました。窯も20年近く使っているので、老朽化しています。こだわりは火力が強く長持ちする炭を焼くことです。

Q 筆甫での生活は、どのようなものですか。

A 山の木々が紅葉する頃から春先まで炭を焼き、薪とともに販売しています。また、農薬と化学肥料を使わない農業をしています。毎日、竹酢液や竹炭の粉末を食事に加えて食べているおかげか、元気に過ごしています。

Q 議会や町に対して、要望や意見はありますか。

A 丸森町の面積はとても広く、コンパクトシティなどの検討も必要ではないでしょうか。丸森の中心部だけに居住を集中させるといったのではなく、8地区ごとに集約することで各地区の文化や慣習を残すことができるかと考えています。

(中津川 かおり 委員)

インタビュー

グラウンドゴルフ

丸森愛好会

プレーの前にラジオ体操で体の節々を緩和してみんなの体調が良いようです。会員募集中です。

多くの方に参加してもらい若返ってもらいたいです。



会長
大槻 和夫さん
(丸森地区)

入会して15年程になります。景色が良く、みんなと友人のように触れ合って体調が良くなります。

友達ができやすいので一緒に楽しんでほしいです。



庶務、会計
渡辺 東子さん
(丸森地区)

表紙のひとば

令和8年4日6日、丸森中学校東側河川敷の阿武隈川運動公園にグラウンドゴルフ丸森愛好会の皆さん34名が集っていました。

グラウンドゴルフの理念は「いつでも、どこでも、誰とでも」丸森愛好会の理念は「楽しく、愉快に、面白く」と聞きました。

それを反映するかのよう
に皆さんの表情はいきいきと阿武隈川の水面のように輝いて見えました。最高齢は93歳の女性です。これからもグラウンドゴルフで心身共に元気で過ごしてほしいです。
(鈴木 美智子 委員長)

議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明德
委員	八巻 眞由
	中津川かおり
	大槻 孝雄
	金森 裕之